吉田·

守男君

作

曲

秋に秋添う時雨月 曙星瞬 く恋々と 未明

遙かに煙

性る大平原 だいへいげん

蕭然秋の小糠雨

されど近づく蕭晨に しばし悄然と

落らるない 幽愁はつのるせつなくも

秋の情趣を知る二十 黒俊馬の長嘶に沈思破れ 原生林の錦も色寂り

一雨もやみてあかね 落葉

赤紫雲の黄昏

に

蜻蛉が翅翎に我 夕陽返し珠玉の はね な へと託すかな 

木の葉さやぎぬ涼風に野菊に滴る血の雫

晨さ

払

暁

は来にけ

り石狩り 野の

情けの露を探求むなり 野を流離えば深き哀愁のをなける

> 紫ねん 己が運命か斯くあるが 利と鎌ょ きらめく 長庚にただ涙

地平の彼方へ冴星空を秋の百子夜に我悄然。 ちょうかなた ほしぎり かんの世は ただただ。涙は何故か りて落つる流れ星のながの質し の彼方へ冴星空を